

つながる力

《No.19》



4月21日、政府交渉 & 院内集会を開催

辺野古土砂全協は4月21日、戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会、平和をつくり出す宗教者ネット「止めよう！辺野古埋立て」国会包囲実行委員会と共催して、政府（防衛省・厚生労働省）交渉・院内集会を衆議院第一議員会館で開催しました。

今回、初の4団体共催の試み、新たなつながりを大切にして土砂搬出反対・「不承認」支持の運動へと繋げていきたいと思ひます。

（詳細は2～3頁をご覧ください）

署名の第二次国会提出は4月22日、米軍基地問題議員懇・うりずんの会を中心に、衆議院は近藤昭一・赤嶺政賢・屋良朝博・川内博史の各議員、参議院は伊波洋一・吉田忠智・高良鉄美の各議員に提出をお願いしました。（21.4.23 首都圏グループ 毛利孝雄）



21.4.21.院内集会

《 目 次 》

政府交渉&院内集会を開催	辺野古土砂搬出反対！首都圏グループ	2～3
沖縄県、「採石中止命令」を発令せず	南部の土砂採取断念求めハリスト	國分賢司
小特集 辺野古への新たな土砂搬出地、熊本・鹿児島を訪問して	阿部悦子	6～7
熊本・鹿児島、つながる旅	牧瀬 茜	8
3月26日付熊本日日新聞 鹿児島県内の土砂搬出企業と搬出予定港		9
3月25日、阿部代表を迎えて 宇城市の搬出候補地を現地視察	間 司	10
馬毛島の現状と闘い	下馬場 学	11
辺野古土砂全協、阿部共同代表を迎えて	磨島昭広	12
目に見える行動を続けます	大谷正穂	13
設計変更申請「不承認を」 意見書運動の意義	松本宣崇	13
高垣喜三さんの思い出	原田みき子	14
《沖縄からの便り その13》 コロナ感染、それでも埋立て・・・	浦島悦子	15
インフォメーション 辺野古土砂全協第8回総会開催のご案内		16

写真提供 毛利孝雄 國分賢司 牧瀬茜

北上田毅さん・具志堅隆松さんが沖縄から参加 政府(防衛省・厚労省)交渉 & 院内集会を開催

辺野古土砂搬出反対！首都圏グループ

政府交渉、院内集会は4月21日(水)午後、衆議院第1議員会館 B1 大会議室で開催された。

「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会(総がかり)」「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会(土砂全協)」「平和をつくり出す宗教者ネット(宗教者ネット)」「止めよう！辺野古埋立て国会包囲実行委員会(国会包囲実)」の4団体により初めて共催された。

大会議室への参加は200名、オンライン中継の別室も満員、Zoom 会議 YouTube 参加者は拡散して100名超。YouTube は今後も視聴できる。アドレスは <https://youtu.be/endRABhgnA4>

生物多様性の宝庫・大浦湾を埋め立て、政府発表でも工期は今後13年以上、工費は当初の2.7倍の9,300億円！「辺野古は唯一の解決策」の破綻は明らか。未だ沖縄戦遺骨の眠る南部土砂での辺野古埋め立てに、遺族や宗教者による署名は全国に広がり、具志堅隆松さんら県庁前広場での1週間のハンスト。立場や世代を超えて共感を広げた。

近く玉城デニー知事は、政府の提出した「設計変更申請」を「不承認」をするだろう。知事と県民の民意を支持し、首都圏から政府に辺野古新基地建設断念を迫っていこうと、会場は、コロナ禍で「密」を避けつつも盛り上がった。

政府交渉ー防衛省・厚労省などの

無内容・矛盾回答を追及

交渉に先立ち、「宗教者ネット」から防衛省に「戦没者の遺骨を含む土砂を辺野古新基地建設に使用しないことを求める」署名が手交された。

防衛・厚労省交渉は、勝島一博さん(総がかり・平和フォーラム)の司会で始まり、この集会の交渉の段取りを整え世話をしてきた近藤昭一議員(衆・立民・沖縄等米軍基地問題議員懇談会会長)から「この3月にも沖縄へ行ったが、あの戦争を2度と起

こさない」と強く感じた」との挨拶を受け、交渉に入った。

防衛省から事前に提出した質問に回答があった。その内容はつぎのとおり。

南部地区の遺骨が混じった土砂調達について、埋立変更承認申請書に添付の「図書」の採取場所及び採取量、発注先など、全ての項目で、「県内外の搬出地・その量は、いずれも未確定」「業者へのアンケート調査で出てきたものを記載しただけ」「まだ決定したものではない」「(遺骨混じりの土砂は)業者が適切に処理すると認識している」と、何度も繰り返した。その回答内容を具体的事例で追求すると、話を全てはぐらかす。

厚労省は「国と県と分担して遺骨を収容するが、(防衛省には)適切に収容されるよう要請している」とは言ったが、防衛省の回答・反応については話を逸らした。

「戦争で殺され、沖縄の海に捨てられる」



具志堅隆松さん(沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガンフヤー」代表)は「沖縄の人びとともに、日本兵・朝鮮人・中国人・米兵の遺骨も埋まっている。遺骨収集がどれほど物理的に技術的に大変な作業か…。どうしても血や肉と共に小さく砕けた骨も残ってしまう。それを掘り返し、米軍基地の埋立てに使うとは何事か」と憤る。

この地に祖父か眠る三世の遺族の女性は声を震

わせながら、「祖父は間違いなく沖縄に居る。戦争で殺され、沖縄の海に捨てられる」…。別の遺族の方からも「戦争で殺された遺骨を敵だった米軍の基地を造るのに使うとは…。防衛省のやることは、日本人への裏切り行為だ」。川内博史議員からは「『遺骨』と言っているが、法律的には遺体である。防衛省がやろうとしていることは『遺体損壊』に当たり、法律上・人道上許されない」などが指摘された。

具志堅さんらの追及は留まるところなく続く。また北上田毅さん（沖縄平和市民連絡会）も防衛省の説明の矛盾点の鋭く突く。話を逸らそうと逃げる防衛省は、時間に救われた。

院内集会－土砂全協は請願署名第2次提出



21.4.21 院内集会で発言する阿部共同代表。後方には参加された国会議員の皆様

引き続き院内集会が、中尾こずえさん（総がかり・9条壊すな！実行委）の司会で進められた。

冒頭、沖縄等米軍基地問題議員懇初代会長の鳩山由紀夫氏から「責任を感じている。頑張っしてほしい」と挨拶があった。

続いて主催団体から「辺野古土砂全協」共同代表・阿部悦子さんと「宗教者ネット」弘田しずえさんが発言。土砂全協からは、請願署名の第2次分として18,580筆（第1次提出分と合わせて628,719筆）を提出、「防衛省は本土からの土砂搬出を諦めたわけではなく、特に鹿児島では40カ所近い鉱山から搬出可能量を調査している。“どの故郷にも戦争に使う土砂は一粒もない”との立場で引き続き運動を強めたい」とアピールを行った。

学習講演に移り、北上田さんは「今年度も設計変更追加工事の入札が公告された。美謝川整備工事は22か月の工期で10～20億円、中仕切り護岸新設工事が13か月で3～5億円、埋立て追加工事

が24か月で30億円以上かかる。設計変更が承認されない限り、軟弱地盤の大浦湾の護岸工事はできない」さらに「護岸工事契約には不可解な点が多々ある」「サンゴ群礁の移植もある」などと問題を明らかにした（パンフにまとめられている）。

具志堅さんは、「遺骨の残る南部の土は絶対に使わせない」と強い決意を語られた。遺骨の眠る南部の土を基地建設の埋立てに使う話、その非人道性について「『本土』の人たちは知らない」と憤慨する具志堅さん、今後、6月23日沖縄慰霊の日と8月15日の本土敗戦の日に向け、本土の人たちに訴えるため再びハンストに決起するという。我々も「どの故郷にも戦争に使う土砂は一粒もない」をスローガンに、連携行動を取りたいと思う。

集会は最後に野平晋作さん（国会包囲実）が、5月中には予想される玉城知事による設計変更申請「不承認」を支持する辺野古ブルーアクションの呼びかけを行い閉会した。（21.4.24）

政府交渉・院内集会には、下記の国会議員の皆さんに参加頂きました

衆議院・立民：近藤昭一 阿部とも子 道下大樹
本多平直 川内博史 屋良朝博

共産：赤嶺政賢

参議院・立憲：吉田忠智 白 眞勳。

沖縄の風：伊波洋一

秘書参加－衆議院・立民：佐々木隆博。参議院・立民：石垣のりこ。共産：紙 智子。社民：福島みずほ。沖縄の風：高良鉄美の皆さん（敬称略）。

VICTRY!!

大坪満寿子さん

南大隅町議選・当選！

鹿児島県南大隅町では4月18日、町長・町議同時選挙投票日でした。土砂全協の結成当初からの仲間「南大隅を愛する会」代表・大坪満寿子さんが町議選（定数12）で二位の高位で再選を果たしました。

町長選では、高レベル放射性廃棄物処分場の誘致に反対した候補が当選しました。

沖縄戦の遺骨の混じる

沖縄県、「採石中止命令」を発令せず

ガマフヤー・具志堅隆松さん

南部の土砂採取断念を求めハンスト

沖縄県在住 國分賢司



3月1日から6日、沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表の具志堅隆松さんと島ぐるみ宗教者の会が、「南部の土砂採取計画の断念。自然公園法第33条2項による採石事業中止命令の発令」を求めハンガーストライキを行いました。



この行動は県内外、さらに海外にも大きな共感を呼び起こしました。沖縄戦を経験した方をはじめ多くの方が激励のためテントを訪れ、賛同署名・カンパに協力が寄せられ、東京ほかで連帯の集会やハンストが行われました（これらは、どの程度「本土」で伝えられているのでしょうか）。玉城知事は「人道的問題として法的にどうするか検討している」と

述べ、照屋副知事は「合法的に規制できないか検討」と表明しました。ついには自民党沖縄県連と公明党県本部が沖縄防衛局に「県民感情に深く配慮すること」と申し入れざるを得なくなりました。「戦没者の遺骨が混ざった土砂を新基地建設に使うのは戦没者への冒瀆」という具志堅さんの訴えは、沖縄県民が共有するところになったのです。沖縄戦で多大の犠牲者を出し、家族親族に犠牲者のいない方はないという沖縄県民には他人事ではなく、まさに自分事であるからです。

◆遺骨は沖縄戦の証言者

糸満市、八重瀬町など県南部の鉾山は、北部のように山を削る鉾山とは異なり、比較的小規模な採石場で平地を掘り下げて（深さは40～50mに及ぶ所も）採取しています。外から一見しただけでは、採石場の看板があってもその実態が分かりません。ドローン映像で確認するほかないのです。このため、熊野鉾山の無届採石作業開始を契機に、県が採石の実態調査をしたところ、無届、法令違反の鉾山が続出しました。戦没者遺骨への配慮はされなかったものと思わざるを得ません。遺骨収集という国の責任を放棄して、業者任せにすることは許されないのです。



沖縄戦経験者は「当時、『鉄の暴風』と言われる激しい砲爆撃のために、大地は緑が無くなり、石灰

岩がむき出しになって、白っぽく見えた」と言います。今は緑がきれいに覆っている場所も、沖縄戦時の写真を見れば、75年前はすべて吹き飛ばされ、焼き尽くされた石と瓦礫の地であったに相違ありません。埋葬できなかった遺骨が、樹林の下、腐葉土の下、畑地の中、海岸の砂の中に今も残されているではと考えれば、慰霊碑、慰霊塔に向かって首を垂れるだけでなく、沖縄の地全体に慰霊と反戦の祈りを捧げなければなりません。

◆沖縄戦をどう捉えるのか、問われている

熊野鉦山開発業者からの開発届は3月18日に受理され、4月16日の期限までに沖縄県がどんな判断をするのか注目されていました。

具志堅さんは県議会や県内市町村議会に「糸満・八重瀬からの埋め立て用土砂採取計画の断念を国に要請する」意見書を採択するよう求めました。この要請に応える形で、3月22日那覇市、南城市での採択を先頭に、地元糸満市、八重瀬町を含む15市町村議会で意見書採択が続ききました（4月14日）。私の住む南城市議会は「激戦地の南部地区から採取した遺骨混入土砂が、普天間代替施設の埋め立てに使われることは人道上許されない」と新基地建设との関わりを明記しています。沖縄県議会は15日、遺骨の混じった土砂を埋め立てに使わないよう求める意見書を全会一致で可決しました。

◆業者任せの「措置命令」は実効性があるか

4月16日、沖縄県は「戦没者の遺骨等が混入した土砂は採取しない」などの留意事項を付けたうえで、鉦山開発の全面禁止は見送り、自然公園法に基づく措置命令を出しました。その内容は、

1. 遺骨収集に支障が生じないよう措置を講ずる。
2. 風景に影響を与えないよう植栽等の措置を講ずる。
3. 周辺植生と同様に原状回復。

これでは採取容認といえます。辺野古に運ばれている赤土だらけの「岩ズリ」を見ている私たちは、業者任せにしたなら、これらの「措置」が単なる「願望」にすぎないことを知っています。

この決定に、具志堅さんは「とても納得できない」と憤り、「私たちの言っていることは間違っ

ていない。大事なのは国の間違いをただすこと」と言います。今回の決定は残念としか言えませんが、強く抗議し、私たちの闘いは続けられます。



◆沖縄の問題は「日本の縮図」

芥川賞作家・目取真俊さんは「沖縄から見た東日本大震災10年」（沖縄タイムス3月11日）の中で、『原発は首都圏住民の生活を支え、米軍基地は日本「本土」住民の安全を支える。多数者の利益のために少数者が犠牲を強いられ、中でもより貧しい過疎地域に負担を押し付けその結果が福島第一原発の事故であり、沖縄が受け続けている基地被害だ』と指摘しています。その暴力的「基地被害」は地理的にも意識的にも「本土」住民から不可視化され続け、「中国の脅威に対抗するにはやむを得ない」とする世論の醸成があります。「本土」の無言の了解があればこそ、政府は「辺野古移転が唯一の解決策」と言い続けられるのです。

4月12日で普天間返還合意から25年。返還が実現するどころか、米軍機の墜落や落下物による命の危険、米軍由来の環境汚染、航空機騒音などの被害にさらされ続け、さらに新基地負担を押し付けられ、未だに沖縄は苦難の道を歩んでいます。

近く、防衛局の「辺野古設計概要変更申請」への承認「拒否」が見込まれると言われています。「辺野古移転が唯一」としか言わない中央政府に対して、新たな闘いが始まります。沖縄県、そして県民は決してあきらめることなく平和を求め続けます。

いま、日米安保の幅を大きく逸脱し、インド・太平洋地域までウイングを伸ばしつつある戦争体制の準備・強化に強い警戒感を持ち、沖縄—「本土」を結ぶ国家の傲慢を打つ民の連帯・協働を強めましょう。（21.4.17）

辺野古への新たな土砂搬出地、熊本・鹿児島を訪問して

辺野古土砂全協共同代表 阿部悦子

3月24日から3泊4日で、熊本県・鹿児島県に行ってきました。昨年9月開催の土砂全協第7回総会は「新たな搬出地と土砂搬出反対のつながりを築こう」と決議しました。今訪問で新たな仲間との運動へ「つながる」道が開けたと思います。

一昨年暮れ、防衛省は「辺野古埋め立て土砂全量の調達先は沖縄県内で可能」との考えを示し、その概要は昨年4月の「設計概要変更申請」で明らかになりました。これにより瀬戸内の土砂搬出は消え、一方で九州各県からの新たな搬出計画が浮上しました。特に鹿児島県では徳之島、奄美大島以外、本土側にも多くの計画が書き加えられました。

まず、今回の旅のきっかけは、昨年いっしょに「ハガキによる意見書運動」に取り組んだ牧瀬茜さんから「辺野古で知り合った熊本県宇城市の友人から、地元が新たな搬出地になっているのだけれど・・・と相談を受けた」と知らされたことでした。この件を相談した熊本市の間司さんからも受け入れを了解して頂きました。間さんは、天草の、今は亡き全協役員生駒研二さんから生前に熊本の運動を託された方です。その後、北上田さん、末田さん、松本さんらの助言で鹿児島への訪問も現実になったのでした。

● 3月24～25日 熊本市と宇城市三角で

24日夜は熊本市で間さんのお仲間へ会い、翌25日には宇城市で、鈴木さん、日高さんが準備万端で迎えて下さり、搬出地の地元三角の方々について下さいました。（その後、早速「辺野古土砂搬出反対うきの会」を発足されました）

● 3月25～26日 鹿児島県議会と大隅半島

25日に移動した鹿児島市では古い友人の野口英一郎鹿児島市議が、「これまで鹿児島県本土の土砂搬出地は南大隅町だけとしか捉えてなかった！」と取り組みへの認識を語って下さいました。

翌26日朝には護憲平和フォーラム事務局長の磨島さんと前田さんにお会いし、鹿児島滞在の2日間に目途を付けて頂き、何ら具体的な予定を持たずに不安でいた私たちは心底ほっとしました。



21.3.26 鹿児島県議会会派「県民連合」控室で。下の写真は県議の皆様にもマスクを外して頂きました。（撮影 牧瀬茜さん）

午後、この日が閉会日を迎えた鹿児島県議会の会派「県民連合」の控室で、会派代表の福司山宣介議員やこの日の設定を下さった遠嶋春日児議員をはじめ会派の全6県議がお集まり下さり、時間を取って意見交換しました。土砂採取に詳しい議員もおられてアドバイスもあり、今後の調査についても約束されました。



21.3.26 悦子さんの学生時代の思い出の景色、開聞岳をバックに。4日間共に旅をして土砂全協のつながる力の大きさに感動しました。（写真左 同行した牧瀬茜さん・談）

この後、南大隅町から駆けつけて下さった全協発足当初からの仲間、大坪満寿子南大隅町議の案内で大隅半島に渡りました。

途中で元鹿屋市議の米永あつこさんを紹介下さって合流。彼女は次期衆院選で、鹿児島4区の森山裕自民党国対委員長（テレビではいつも二階幹事長にくっついている）に、社民党から挑むと言われる。案内を受けて鹿屋市と肝付町の4か所の採石場を見学。山が消えた大規模な採石場をこれからさらに広げていこう場所もあり、話をしてくれた社長自らが「もうここでは採れんよ」と言った小規模採石場までいろいろありました。話が聞けた所ではどこも「辺野古に行くことは聞いている」、さらに「馬毛島にも」とのこと。気になったのは、大隅半島の土砂搬出が集中する港が、軍事化、大規模化の進む志布志港でしたが、時間の関係で視察は叶いませんでした。



左から阿部悦子さん、社民党元鹿屋市議米永あつこさん、南大隅町議大坪満寿子さん（撮影 牧瀬茜さん）

米永さんは車の中で大隅の現状を話されました。4月18日投開票の南大隅町長選挙で自民党前政調会長岸田文雄氏が推す元秘書の田中氏が、高レベル放射性廃棄物処分場の受入れを公約に活発に動いているといい、ピラには「国のエネルギー政策を担う誇り」「当選後には一人30万円の商品券を配る」と書かれていました。その南大隅町目の先にある馬毛島では、「米軍空母艦載機離着陸訓練（FCLP）の施設計画」が地元の意向を無視して強引に進められているのです。

そこに持ち上がった設計変更後の土砂大量搬出予定地（鹿児島県本土側だけで15市町28か所）です。米永さんは「辺境の場所を狙って次々と国策が打ち込まれる。でもこれらはこの国の未来を決する

重大問題ではないか」と。私たちは、「沖縄・辺野古」を抜きにこの国の未来が語れないように、大隅半島で起きている問題にも目を凝らし、声を挙げていかなければと、胸に刻みました。



訪れた採石場で従業員の方と立ち話をする場面もしばしばありました（撮影 牧瀬茜さん）

● 3月27日

薩摩半島半周と鹿児島市内の採石場

磨島さんは、翌朝早くから私たちの夕方の飛行機の時刻まで、たっぷり薩摩半島を案内して下さいました。車中では馬毛島も行政区域に持つ西之表市も所在する種子島で既に行われている自衛隊敷地外での初の日米共同軍事訓練など、話を聞くことができました。軍事基地化する琉球弧、第一列島線上の「南西シフト」の進行を身近に感じる時間でした。地理に詳しい磨島さんは6か所の採石場（南九州市、枕崎市、鹿児島市）を案内してくれました。どこも眼を覆うばかりの大規模な山々の掘削でした。それは南九州の平和で雄大で美しい風景に反する行為であり、破壊と軍事化が進むこの国の今を身近に感じざるを得ませんでした。

一方、磨島さんは私たちを楽しませることに気を使われ、茜さんと2人でお礼を言うたびに、「礼なら奄美の城村に言って！」と繰り返し、さらに「城村さんと連絡を取って来年の土砂全協の総会を鹿児島で引き受ける準備に入る」との見通しも語って下さいました。

このように「つながる力」の豊かさと広がりから感謝した4日間の旅でした。最後に、体力の切れそうな私の重い荷物を持ち、写真撮影を引き受け、終始サポートして頂いた牧瀬茜さんに感謝する旅であったことを報告します。（21.4.15）



熊本・鹿児島、つながる旅

辺野古土砂全協会員 牧瀬 茜

小特集



辺野古で出会った熊本の鈴木さんと日高さんの住む宇城市が土砂搬出の候補地に挙げられた……そんなご縁で、今度の阿部悦子さんの熊本、鹿児島の訪問

に私も同行させていただきました。

3月25日 熊本県宇城市

3月25日は熊本の皆さんと共に三角にある採石場を訪れました。海の向こうには普賢岳が見えます。採石場構内では、切り取られて段々になった道を、石を積んだ大きな作業車が下りてきて石を降ろしてはまた登っていきます。この山も様々な目的で削られてきたのでしょうけれど、元の姿を想像すると胸が痛みました。ふと辺野古の海の色やウミガメ、大浦湾のサンゴや色とりどりの魚が泳ぐ景色を思い浮かべました。山を壊し続け、海を壊し続け、私たちはいったいどこへ行くのだろう。

「ダンプが来たら座り込むつもり」と、戦争を体験され、もうすぐ90歳になるという元松さんが言いました。この運動は戦争を繰り返してはならないという闘いなのだとキュッと身が引き締まる思いです。

3月26日 鹿児島県議会・大隅半島

熊本から鹿児島へ。26日午前中は鹿児島市で、市民団体や県議会会派・県民連合議員との会合でした。悦子さんは、行く先々で資料を提示しつつ、土砂全協の活動、鹿児島の新たな搬出候補地の多さ、沖縄島南部の遺骨がのこる土砂をも使おうとしている話や辺野古・大浦湾の生物多様性、外来生物の問題、土砂条例のことなどを伝えてまわりました。驚きの声あり、情報を持っている方の発言があり、早速動いて下さる方もあり、また今後の取り組みの提案も出るなど、手応えある滑り出しと感じました。

その後、船で垂水へ渡り、南大隅町町議の大坪さんと元鹿屋市議の米永さんにご案内いただいて大隅半島の採石場を巡りました。南大隈町の高レベル放射性廃棄物の処分場計画、馬毛島のFCLP（米空母艦載機の陸上離着陸訓練）移転と自衛隊基地建設など、このあたりには国策が次々と襲いかかっている、その上さらに辺野古、大浦湾への土砂搬出とは！

立ち寄ったとある採石場の方は「辺野古の話もありますよ。馬毛島にも出すことになってます」と言いました。悦子さんが「私たちは辺野古の海を守ろうという活動をしているんです」と伝えると、「国や県から言われたらうちは出しますから……」と言いつつ、最後に「がんばってください」とひとこと。米永さんにこのやりとりを話すと「罪のない人に罪をつくるのよね」とポツリおっしゃいました。悪い国策が人に罪をつくる、今の世の中そういうことが多過ぎやしないかと思いつつ、身につまされもしました。

3月27日 薩摩半島

27日は護憲平和フォーラムの磨島さんの案内で、薩摩半島の土砂搬出予定地を巡りました。掘削された痛々しい山から目を移すと茶畑の鮮やかな黄緑に、鳥の声、春の花、美しい景色がありました。途中、特攻隊が沖縄に向け飛び立った知覧に立寄りました。軍事基地建設に土砂を送らない思いは、子どもたちを戦争に送らない願いでもあります。

米軍・自衛隊の琉球弧の軍事化が推し進められ、そのことも含め、もうあらゆることに利権がはびこって、その陰で大切なものがないがしろにされたり犠牲にされている現状をひしひしと感じました。巨大な力を前に、小さな私たちが繋がること、広げることの大切さを思う旅でした。

(21.4.14)

宇城市の土砂も辺野古へ

沖縄防衛局 20万立方メートル調達予定

米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の名護市辺野古移設で、沿岸部の軟弱地盤改良工事に伴う埋め立て土砂の採取予定地に、宇城市三角町の採石場が含まれていることが25日、分かった。県内の採取予定地は天草市御所浦町に続き2カ所目。

沖縄防衛局が昨年4月、沖縄県に提出した埋め立て地の用途と設計概要の變更申請によると、熊本県内の新たな採取予定地に宇城市三角町の採石場を追

加。沖縄県外から調達可能な岩すり(採石で



沖縄県辺野古沿岸部の埋め立て土砂の採取予定地を調査する宇城市民ら25日、同市

約10人が国道57号沿いにある採石場を視察。辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会の阿部悦子共同代表(左)「愛媛県も駆け付け、「予定地のそばで状況を見守ってくれる市民がいる」ことが分かり、希望

を持った」と語った。座り込みなど辺野古での反対運動に参加してきた宇城市の鈴木慶子さん(72)は「地元の子を沖繩の海の埋め立てに使うなんて耐えられない。多くの市民に現実を知ってほしい」と話した。今後は各組織と連携しながら、反対運動を展開する

米軍機の騒音被害 住民116人追加提訴

普天間飛行場

米軍機の騒音で健康被害が出たとして、米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の周辺住民が、夜間・早朝の飛行差し止めと損害賠償を求め、それ以外の時間帯も騒音を抑えるよう主張している。請求額は1人当たり月3万円、1人計5347人となる。

原告は追加提訴に先立ち「静かな日々を返せ」と書かれた横断幕を掲げて集会を開き、「被害がやむまで闘い続ける」と声を上げた。島田善次原告団長(80)は「米軍機の騒音は激しくなっている。今の沖縄は軍事植民地だ」と訴えた。

2021.3.26 熊本日日新聞社会面

鹿児島県内の土砂搬出企業と搬出予定港



変更申請添付図書をもとに末田一秀さんが採石業者を特定し、牧瀬さんが採石業者名を地図上に入れて仕上げました。鹿児島では大変関心呼びました。

3月25日、阿部代表を迎えて

宇城市の搬出候補地を現地視察

辺野古御所浦意見広告の会 間 司



新たな搬出候補地が

一旦、取り下げとなった、西日本各地からの、辺野古への埋め立て土砂搬出の計画案が、手直しされて再登場していたのは昨年のことでした。以前の案では、熊本県からは、御所浦の採石場の岩ズリ300万 m^3 が候補とされていましたが、新案では御所浦が250万 m^3 に変わり、更に新たに宇城市から20万 m^3 という案が追加されてきました。

新たに候補地となった宇城市では、住民の日高さんと鈴木さんが「なんとかしてこれに反対する動きをつくらなくては」と、辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会の阿部代表に連絡をとり、私たち意見広告の会も合流して今回の宇城市現地視察が実現しました。視察は熊本日日新聞(21.3.26付け9頁上段に掲載)で取り上げられ、多くの熊本県民が初めて、宇城市から辺野古埋め立て土砂の搬出計画があることを知ったはずでした。

3月25日、現地視察



右から、辺野古御所浦意見広告の会の間さん、宇城市お住まいの鈴木さん、日高さん、山田さん、元松さん、阿部悦子、宇城市議の五嶋さん、熊日新聞の飛松さん (撮影 牧瀬茜さん)

阿部さんと牧瀬さんを迎えて、日高さん、鈴木さんをはじめ宇城市市議の五嶋さん、地元の3人

の女性の方の案内で、天草の入り口に当たる宇土半島の採石場と三角港の積み出し施設を視察しました。株式会社太陽(受け入れ業者と想定される(株)吉田企業の関連会社)の看板のある採石場は、採掘としてはほぼ終了している御所浦と違い、ダンプやショベルが行き交う操業中の採石場でした。三角港の一角で、採石類の積み出し施設として現在稼働中の場所からは、ほんの7~8キロでした。その積み出し施設では、御所浦の方の想定業者である(株)隆勢のショベルが作業していて、二つの業者のつながりを連想させる光景でした。

宇城市の現場を視察して感じたことは、積み出し施設が整っていることで、洋上での大型船への積み替えが想定される御所浦のケースとの違いです。わざわざ20万立方メートルという小単位の新候補地が付け加えられた意図はどこにあるのでしょうか。

新しいスタート

阿部さんと牧瀬さんは、視察を終えたその足で鹿児島へ向かわれました。鹿児島でも、搬出反対の議員さんたちとの会合や、現地視察を通して、取り組みのきっかけが出来たと聞いています。熊本でも、日高さん、鈴木さんを中心に現地を案内してくれた女性の方達も入れて、「辺野古土砂搬出反対うきの会」が発足しました。私たち意見広告の会も、御所浦、宇城の現地との連携、更に鹿児島をはじめ全国協議会との連携を深めて、これからが正念場の、辺野古埋め立て反対運動の新たな一歩を踏み出していこうと思います。

(21.4.15)



馬毛島の現状と闘い

鹿児島県護憲平和フォーラム代表 下馬場 学



馬毛島は鹿児島県種子島の西方 12 km、面積 8.18 km²、最高地点は 71.1 m と低いなだらかな島です。

1951 年、開拓のため 39 世帯が入植、最盛期には 59 年で 113 世帯 528 人が住んでいたが、80 年に無人島となりました。島内にはニホンジカの 1 亜種・マゲシカが棲息、周辺はナガラメ（トコブシ）やトビウオなどの好漁場となっています。

無人島になって以降、レジャー施設・石油備蓄基地建設計画などが挫折し、その後、立石建設（現タストーン・エアポート（株））が買収を進め大半を所有、日本版スペースシャトル（HOPE）着陸場、使用済み核燃料中間貯蔵施設など誘致構想に沿って、違法伐採などを繰り返してきましたが、どの計画も実現していません。

2006 年の日米安全保障会議（2 + 2）で、米軍再編の一環として厚木基地の米空母艦載機の岩国基地移駐に合意し、07 年にそれまで硫黄島で行っていた空母艦載機離着陸訓練（FCLP）地として、馬毛島がにわかに浮上しました。これを受け種子島・屋久島の全自治体・西之表市・中種子・南種子・屋久島の 3 町は反対を決議し「米空母艦載機離着陸訓練施設対策協議会（「協議会」）」を結成し、西之表市住民は各種団体による「馬毛島の軍事施設に反対する市民連絡会（「連絡会」）」を結成、反対運動に取組みました。

08 年には「協議会」が防衛省に移設反対の要望書を提出、その際示された訓練飛行空域は馬毛島を中心に半径 45 km で、種子島全域と屋久島・南大隅町の一部が入るとされました。11 年の「2 + 2」の合意文書に FCLP の恒久施設として馬毛島を検討対象とすると明記され、対して鹿児島県議会は反対決議を採択し、市議会議長会及び 14 市町村議会も反対意見書を採択しています。同年 7 月に小川防衛副大臣が西之表市を訪問し、08 年説明の訓練飛行空域を大幅に縮小し、あたかも種子島には影響がないような

説明しました。「連絡会」はこの間、反対署名を取組み 1 次 70,071 筆・最終 219,474 筆を防衛省に提出してきました。

12 年から 17 年、中種子町議会、南種子町議会が「協議会」から離脱し、「協議会」は 18 年に解散しました。

島民の反対運動や防衛省と用地買収交渉の不調から、FCLP 関連施設建設計画は頓挫したかに思われました。しかし防衛省は「中国・『北朝鮮』脅威論などの安全保障環境の変化」、「島嶼部攻撃への対処」などを口実に自衛隊基地建設・馬毛島の総合的軍事基地化を推し進めています。18 年には中種子町で陸自水陸機動団（佐世保市）と米海兵隊との合同上陸訓練を強行、19 年には評価額 45 億円の土地を 160 億円で買収契約が成立しました。また住民への説明も住民の納得も全くない中、各種建設工事の入札を公示、ボーリング調査を行い、21 年 2 月には「環境アセスメント」にも着手しました。

この間、17 年・21 年実施の西之表市長選挙での基地建設反対の八板候補当選や、西之表市議会での「馬毛島の活用計画」承認、「馬毛島への米軍施設に反対する市民・団体連絡会」が取り組む署名活動や県知事・防衛省への申し入れなどの馬毛島基地建設反対の取り組みを重ねてきました。それらを無視し、建設計画を強行する政府や防衛省の対応は、辺野古新基地建設の埋め立て強行と全く同じです。また、馬毛島の北部と南部の草原地に雄が生息し中央部の植林地に雌が生息するマゲジカは、基地建設によって絶滅が危惧されます。

米軍再編や中国・『北朝鮮』脅威論に便乗した馬毛島基地は、いたずらに東アジアの安全保障環境を緊張させ、とりわけ琉球弧（南西諸島）を有事の際の攻撃対象＝戦争へと導くことでしかありません。

全国の皆さまとの連帯・団結の力で、馬毛島の軍事基地建設を阻止していきます。（21. 4. 15）

辺野古土砂全協、阿部共同代表を迎えて

鹿児島県護憲平和フォーラム事務局長 磨島 昭広



沖縄防衛局が2013年3月に提出した埋立て申請書では、土砂の大半を占める岩ズリの調達先として、沖縄に加え九州・瀬戸内の7地区・13カ所の採石場が記載され、東京ドーム約17個分2062万 m^3 の土砂を使う計画で、内容は岩ズリ79.7%、山土17.5%、海砂2.8%。必要な岩ズリは約1690万 m^3 、そのうち75%を、奄美・九州や瀬戸内など沖縄県外6県から搬入の予定でした。

大浦湾一帯に軟弱地盤が存在することが明らかになり、再度、変更申請しなければならなくなりました。そこで、九州地方から調達することが急浮上しましたが、沖縄防衛局は、この地盤改良工事に必要な砂650万 m^3 の採取場所は、これまで明らかにしていません。



21.3.26 鹿児島県護憲平和フォーラム事務局で懇談
(撮影 牧瀬茜さん)

3月26日、辺野古土砂全協の阿部悦子共同代表と牧瀬茜さんが、鹿児島県護憲平和フォーラム事務局を訪れました。阿部さんは「2020年4月に沖縄防衛局が提出した設計変更申請書で、辺野古に利用する土砂の採取地を、沖縄では1地区2カ所から、ほぼ県内全域の7地区9市町村（沖縄激戦地を含む）に拡大したことが明らかになり、「沖縄県内で猛反発が広がる可能性がある」ことから沖縄防衛局は「北九州、瀬戸内地域を除く、佐賀・長崎・熊本・鹿児島県にシフトしていく可能性がある」ことを説明しました。特に鹿児島県内は、12市（鹿児島・南九州・日置・串木野・

薩摩川内・出水・南さつま・枕崎・始良・鹿屋・志布志・曾於）8町（湧水・肝付・錦江・瀬戸内・住用・竜郷・徳之島・天城）からの土砂搬出が多く、持参した資料「変更申請の搬入計画の概要」とその資料を基に、同席した牧瀬さんが可視化した地図（9頁下段地図参照）を示しながら危機感を持っていることを訴え、県フォーラムに協力を要請しました。

県内からの土砂搬出問題は、奄美ブロックを中心に取り組み、九州ブロックでも協議してきましたが、改めて、示された地図を見たときに県内の山が、自然が壊されている現状に危機感を覚えしました。その後、社民党県本部の役員、県議会会派の県民連合の議員さんとの意見交換で、土砂全協の取り組みへの協力要請をしました。

終了後、二人は南大隅町の大坪町議に連れられ鹿屋市に向かいました。翌、27日は、夕方に帰る無計画？（笑）な二人を車に乗せ、朝から南九州市、枕崎市、鹿児島市にある市街地から離れた山深い場所にある採石場と積出港を視察しました。

驚いたのは、二人のチームワークとパワーです。どの採石場でもズカズカ（失礼）と敷地内に入っていき姿には圧倒されました。関係者には「採石場に興味のある変わった親子（笑）」と映ったのでしょうか。道中トラブルが無かったことが、証明しています。

冗談はさておき、関係者の話として、各採石場から馬毛島基地建設工事へも搬出するという情報は、今回の大きな収穫でした。

県平和フォーラムは、今回、土砂全協から頂いた情報を無駄にすることなく、県内7ブロックに参加する組織・団体で共有し、辺野古基地建設の動向を注視しながら沖縄と連帯した取り組みを強化していきます。（21.4.15）



目に見える行動を続けます

辺野古土砂全協共同代表 「辺野古に土砂を送らせない！」山口のこえ 大谷正穂

当初は山口県内からも埋め立て土砂搬出が計画されていたことで、搬出をとめるため行政も巻き込んだ行動を考えていました。設計概要変更に伴い、山口県が搬出予定地から外れ戦略の練り直しが必要になりました。といっても防衛省は作戦のプロですから、いつ奇襲をかけられるかわかりません。これまで通り特定外来種オオキンケイ菊の調査は続けます。

大まかにいって、今後の辺野古をめぐる動きは司法が舞台になるでしょう。市民からはなかなか目が届きにくくなります。本土ではニュースの量も限られてくるでしょう。これまで関心を持って

辺野古を見てきた人が離れていくことがないように努めます。折に触れ辺野古の情報を流します。これまでつながりのあった団体などにも呼びかけ、5月末に沖縄から金井牧師を招き、辺野古をめぐる動きや遺骨混じりの土砂問題について集会を開催、今後も大規模な集会をおこないます。なによりも大衆運動のカギは現場にあります。コロナの状況をみながらゲート前や安和棧橋、塩川港での抗議行動にその都度新たな人を募り参加します。

新手などはありません。限られた手段でも本州の一地域から声を挙げ続けます。(21.4.17)



設計変更申請「不承認を」意見書運動の意義

辺野古土砂全協事務局長 松本宣崇

沖縄防衛局が昨年4月提出した「設計変更申請」が同年9月8日から二週間、沖縄県により公告縦覧されました。縦覧期間内には、申請を不承認とするよう求め、市民や任意の市民団体が「利害関係人」として、許可権限者・沖縄県知事に対し意見を届けることができます。

沖縄県知事への意見提出では、ハガキをなど様々な手段を駆使し、全国各地の辺野古反対運動団体・市民によって呼びかけられました。辺野古土砂全協も「ハガキで知事に不承認を求めよう」と、署名活動協力者、さらに活動を支援してくれる市民・団体に呼び掛けました。沖縄県は10月9日、県内はもとより全国から期間内に届いた意見書は18,904通(2013年埋立て申請時3,371通の約6倍)と、速報値として発表しました。圧倒的多数が「不承認」の意見だったと。

意見書は沖縄防衛局の無謀な計画に対し、市民の環境や生態系に対する科学的知見や法的知識を結集し、創意工夫を凝らした活動が結実したものと思います。そして意見書は、度々「不承認」を表明してきた玉城沖縄県知事の決断を支えるに違いないと思います。

玉城知事は5月中には、沖縄防衛局の変更申請に判断を下すのでは、とされています。「不承認」を言い渡すと確信しています。しかし、その先には勝利の困難な国の提訴＝司法の場の闘いが待ち受けます。勝利へその背中を支えるのは、私たち市民一人ひとりの発言と行動です。

「おかしいことはおかしい!」「政権も行政も決して無謬ではない!」正すことができるのは、市民の経験と英知です。様々な市民運動のなかで、環境アセスや法改正のためのパブコメなど一市民の意見表明の場を活かしたいと改めて思います。(2021.4.25)

高垣喜三さんの思い出

本部町島ぐるみ会議 原田みき子

本部町島ぐるみ会議の中心メンバーだった高垣喜三さんが急逝されて4か月が過ぎた。この間、日本で一番早く咲く本部町のヒカンザクラが咲いて散った。ハラハラと散るソメイヨシノと違い、ヒカンザクラは散る姿を見せない。いつの間にか散っていつの間にかサクランボが実っている。4月上旬の今、庭のサクランボに鶯やメジロが次々に訪れ、赤く熟れた実を啄んでいる。

高垣さんはいつもニコニコ笑顔を決やさず、決して弱音を吐かなかった。心臓の持病で何回も手術を受けていたのに、一番早く現場に駆けつけ、鉾山や港の見回りをしてくれた。4年前から国は本部町の塩川港から辺野古へ土砂を搬出して、私たちは高垣さんからの連絡を受けて現場へ向かった。土砂を積んで港に入ってくるダンプカーに「違法工事ですから止めて下さい」とひたすら頭を下げお願いする運動だ。一方、高垣さんは一台ずつ車両ナンバーをリストに記入しデータを作った。このデータは北上田毅さん初め運動の中枢に報告され、工事全体の進捗状況が判明する。高垣さんの地道な活動が如何に重要な任務であったか言うまでもない。一年ほど前から本部のメンバーを中心に時々交代をしていたおかげで、現在も滞りなく活動が継続されている。もう一つの安和棧橋のほうも本部メンバーを中心にチェックされていて、二カ所のデータからは埋め立て量全体の約5%でしかないことが報告されている。市民運動の成果と喜ぶたい。

辺野古土砂全協の「故郷の土を辺野古に送らない」運動もかなり国を追い詰めている。因って国は糸満の戦没者の遺骨が眠る土砂まで掘ろうと画策しているが、あちこちの市町村で反対決議が続いている。県民ばかりでなく海外でも抗議行動が

新基地反対、最期の日まで

本部町島ぐるみ会議 高垣喜三さん死去



安和・塩川で立ち続け

【本部】名護市辺野古の新基地建設計画に反対する市民運動の中心メンバーだった高垣喜三さんが12月3日、本部町内の病院で死去した。各報に安和の塩川セメント橋や本部町の本部港内地区で続いていた土砂搬出作業について、高垣さんは本部町島ぐるみ会議のメンバーとして活動的な取り組みを続け、行政側と交渉するなどして、運動の中心メンバーとして活躍し、最期まで立ち続けた。亡くなった1日も塩川地区の監視に参加し、帰郷後に自宅を療養しての経過が明らかになった。

抗議市民ら別れ惜しむ

【本部】高垣喜三さんの死去を悼み、本部町島ぐるみ会議のメンバーら約20人が、本部町内の病院で死去した高垣さんの遺体を弔問した。高垣さんは、本部町島ぐるみ会議の中心メンバーとして活動的な取り組みを続け、最期まで立ち続けた。亡くなった1日も塩川地区の監視に参加し、帰郷後に自宅を療養しての経過が明らかになった。

高垣さんは、本部町島ぐるみ会議の中心メンバーとして活動的な取り組みを続け、最期まで立ち続けた。亡くなった1日も塩川地区の監視に参加し、帰郷後に自宅を療養しての経過が明らかになった。

2020. 12. 3 琉球新報

起きているので、再び県外の予定地が狙われるだろう。阿部悦子さんから届いた資料では、九州四県にそんな気配があるようだ。辺野古土砂全協の闘いに期待する。

高垣さんご夫妻との思い出で一番心に残っているのは、我が家で食事会をした時のこと。奥様の縁（ゆかり）さんが京都のご出身とわかり、元をたどれば夫の原田と繋がるのでは？と話が盛り上がったこと。いつも華やかなピンクのファッションで喜三さんに寄り添っておられた緑さん。先日お会いした時、お痩せになられていたので心配になった。悲しみを乗り越え、一日も早くヒカンザクラのような笑顔を取り戻してほしいと切に願う。(21. 4. 7)

沖縄からの便り

《連載 No.13》

いちやりば
ちよーでー

コロナ感染、世界を席卷 それでも辺野古埋立て継続 —— 許さない！ 沖縄の民意は「新基地NO！」

へり基地いらぬ二見以北十区の会 浦島悦子



世界中を席卷する新型コロナウイルス感染がいつ収束するのか、先行きは未だ見えない。辺野古をめぐるこの1年間の状況もそれに

翻弄されてきた。自公政権の愚策「GoToキャンペーン」や、感染爆発する米国から在沖米軍基地に移動してくる米兵たちによるウイルスの持ち込み（＝「ヤマトと基地からの挟み撃ち」）に県民は戦々恐々とさせられた。

感染蔓延の中で国・県の緊急事態宣言が発せられたが、防衛省・沖縄防衛局は何があっても新基地建設工事を止めようとしぬ。私たち（市民団体から沖縄選出国會議員に至るまで）は何度、工事の中止を求めて沖縄防衛局に要請を重ねたことだろう。しかしそのたびに返ってくるのは、「辺野古移設が唯一の解決策。工事を着実に進める」という、壊れたテープレコーダーのような繰り返しのみ。工事が止まらない中で、年配者の多い現場行動参加者の命を自主的に守るために、「辺野古新基地を造らせぬオール沖縄会議」は昨年4～5月、8～9月、今年1～2月と、緊急事態宣言下の現場行動休止を決断した（組織的行動は休止し、監視行動は継続）。

県の緊急事態宣言解除後の3月2日から、陸・海ともコロナ感染対策を取りながら現場行動が再開されたものの、沖縄ではまたも感染が拡大（新規感染者比率全国2番目）。県が最高警戒レベルに引き上げたのを受けて、現場行動も4月12日から5月連休明けまで、4回目の休止を余儀なくされた。

それでも工事は止まらない。進捗は大幅に遅れているとはいえ、豊穡の海が日々埋め殺されてい

くを見るのは辛い。かつて旧暦3月3日（今年は4月14日）の浜下りで見た、透き通る浅海にゆらゆら揺れていた緑鮮やかな海草藻場も、色とりどりのサンゴも、すでに土砂の下敷きとなり、餌場を失ったジュゴンたちは行方不明になってしまった…。

大浦湾の軟弱地盤改良工事のために沖縄防衛局が沖縄県に提出した設計概要変更承認申請に対する県知事判断が、5月中にも出ると見られている。この申請について県は地元である「名護市長意見」を照会したが、私たち市民や市議会野党の再三の要請や追及にもかかわらず、渡具知武豊市長は「意見を出さない」と県に通知した。私たち「名護市政を考える女性の会（いーなぐ会）」では、市長が出さないなら市議会としての意見を出すよう陳情を行って採択され、野党議員提案により、変更承認申請に対し「不承認とすることを求める意見書」が採択された。

名護市における次の課題は、大浦湾の埋め立て予定地に河口を開く美謝川の水路変更問題だ。埋め立てのためには水路変更が必至だが、それには名護市との協議が必要となる。稲嶺進前市長は市長権限でそれを止めてきた。官邸のご機嫌を窺う現市長をどこまで追い込めるか、そして、何よりも、来年年明けすぐに行われる次期名護市長選挙で、1997年の名護市民投票以来変わらない「新基地NO！」の市民意思を体現すべく、市政を市民の側に取り戻せるか、私たち名護市民の正念場が迫っている。（21.4.12）



辺野古土砂全協第8回総会開催のご案内

日時：2021年5月30日（日） 13:00～

会場：北九州市立男女参画共同センター「ムーブ」・小セミナールーム

（北九州市小倉北区大手町 11-4 093-583-3939）

北九州市を主会場として、オンライン（会議用アプリ：ZOOM）で開催します。



「第四波」と言われ、更なるコロナ感染の拡大が危惧される事態となっています。

団体会員・個人会員の健康と生命に不安をもたらさないため、オンラインで開催します。

北九州市会場は定員の三分の一としますので、福岡県外からの主会場への参加は控え下さい。

お申込先 八記久美子（北九州連絡会）

全国各地の会員の皆様には、オンラインでの総会参加をお願いします。

参加ご希望の方は、5月17日（月）までに、下記、申込先へメールでお申込み下さい。

「招待」メールを5月25日（火）と29日（土）の2回送ります。

kanpanerura888k@gmail.com

高垣喜三さんのご急逝を悼みます

思いもかけぬ突然の訃報に驚いています。高垣さんが、黙々と調査を続け、カウントした運搬船隻数やダンプ台数のデータは、沖防よりも事実をつかみ、運動の基礎となっていました。私も、ご遺志を引き継ぎ、何としても埋め立てを止めるべく、尽力せねばと改めて決意を新たにしたところです。ご冥福をお祈りいたします。

余りにも急な訃報でした。阿部共同代表が2020年12月4日のご葬儀に駆けつけ、上記の弔電を「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会顧問 湯浅一郎」名でご霊前に届けました。（14頁をご参照下さい）

編集後記

新型コロナウイルスの国内確認から1年余り、市中感染は収束を見るところか、変異株も発現、菅政権の無為無策もあって深刻極まる第四波、東京五輪どころではない事態と思うのは、私一人ではなかろう。その中で辺野古の埋立ては進められ、怒り心頭。

この間、巢籠もり状態の事務局だが、オンラインの総会開催後もリモート会議を断続的に開き情報を共有しながら、活動を続けています。

引き続きご支援・ご協力をお願いします。（松本）

2021年度会費のお願い

2021年度団体・個人会費のお納めをお願いします。カンパ熱烈大歓迎！

— 郵便振替口座 —
番号 01750-8-144158
名義 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

《辺野古土砂搬出反対全国協議会ニュース 19号》 2021年4月30日

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 阿部悦子（環瀬戸内海会議） hibi_letsuko@yahoo.co.jp

大谷正穂（山口のこえ） masaho1954@gmail.com

編集…松本 宣崇（環瀬戸内海会議） nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

…八記久美子（「辺野古土砂搬出反対」北九州連絡会） kanpanerura888k@gmail.com

HPアドレス…<http://stophenoko.html.xdomain.jp/>

事務局…〒700-0973 岡山市北区下中野 318-114 松本方 TEL・fax 086-243-2927

連絡先…〒794-0026 愛媛県今治市別宮町9-7-4 阿部悦子 TEL 090-3783-8332

振込先…郵便振替 番号 01750-8-144158 名義 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会